

# **SEKONIC**

## **フラッシュマスター L-358**

### **使用説明書**

保証書付

お買いあげありがとうございます。

この使用説明書をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

この使用説明書には、保証書が添付されておりますのでお読みになった後も、大切に保存してください。

# 正しく安全にお使いいただくために

ご使用になる前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

 **警告** このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合、製品の使用者等が死亡、または重傷を負う可能性があることを示す警告マークです。

 **注意** このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合、製品の使用者等が軽傷、または中程度の傷害を負う可能性がある状況、または物的損害が予想される危険状況を示す注意マークです。

**ご注意** 操作をする上での注意や制限です。誤った操作をしないために、必ずお読みください。

**ご参考** 操作の参考になることや、関連した機能などについての情報です。お読みになることをお勧めします。

---

 **警告** 乳幼児等が誤ってストラップを首に巻くことのないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。

電池を火の中に入れて、ショート、分解、加熱、充電は絶対しないでください。電池が破裂し火災、ケガ、周囲を汚染する原因となります。

 **注意** 雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合は、感電の危険がありますのでシンクローターミナルキャップを外さずに「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

正しく安全にお使いいただくために

## 目次

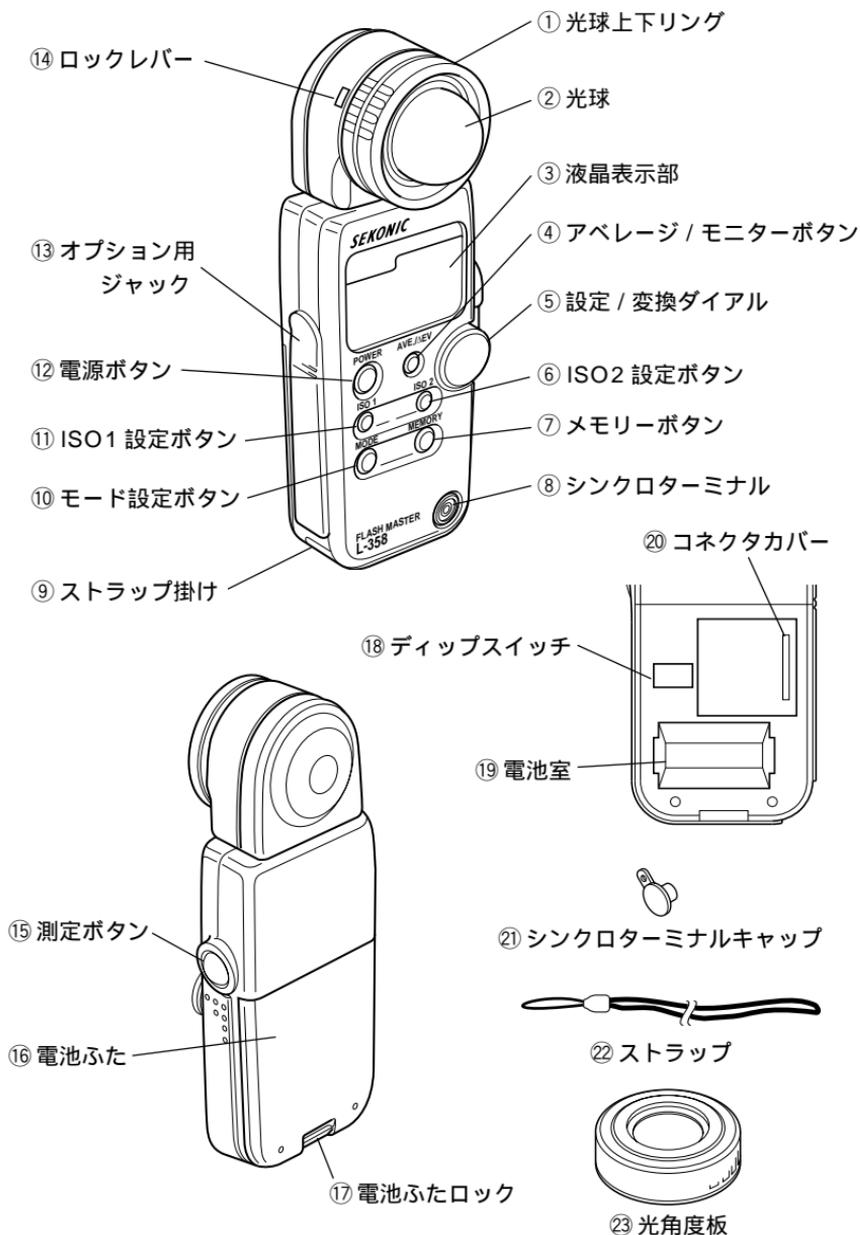
1. 各部の名称 .....	1
2. 液晶表示部の説明 .....	2
3. ご使用前に .....	4
1. ストラップの付け方 .....	4
2. 電池の入れ方 .....	4
3. 電池容量の確認 .....	5
4. 測定中やメモリー機能使用中の電池交換 .....	5
5. 自動電源 OFF 機能 .....	6
6. フィルム ISO 感度の設定 .....	6
7. 第 2 フィルム ISO 感度の設定 .....	6
8. 設定・測定値のロック及び解除 .....	7
4. 基本操作 .....	8
1. 測定モードの設定 .....	8
2. ディップスイッチの設定 .....	9
3. 入射光式で測定する場合 .....	10
4. 反射光式で測定する場合 .....	11
5. 測定 .....	12
1. 定常光の測定 .....	12
1-1 シャッター速度優先モードの測定 .....	12
1-2 絞り優先モードの測定 .....	14
1-3 EVモードの測定 .....	15
1-4 シネカメラ撮影時の測定 .....	16
2. フラッシュ光の測定 .....	18
2-1 フラッシュ光コード接続モードの測定 .....	18
2-2 フラッシュ光コードレスモードの測定 .....	21
2-3 フラッシュ光コード接続 積算(マルチ)モードの測定 .....	23
2-4 フラッシュ光コードレス 積算(マルチ)モードの測定 .....	25

# 目 次

---

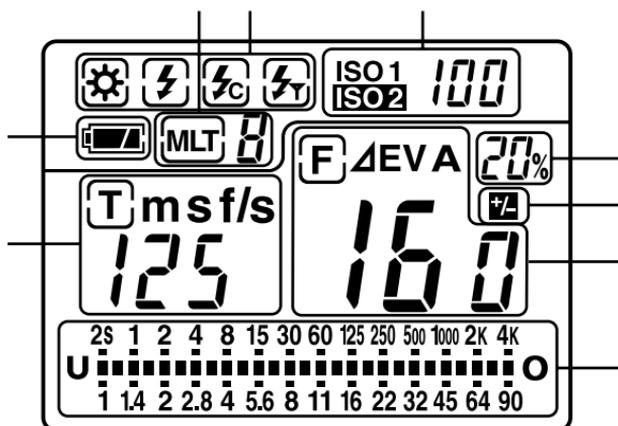
6. 機能 .....	27
1. メモリー機能 .....	27
2. アベレージ機能 .....	28
3. モニター機能 .....	29
4. 簡易照度計としての使い方 .....	31
5. 指示値補正機能の使い方 .....	32
6. 分離測光機能 .....	33
7. アクセサリー .....	35
8. 仕様 .....	37
9. 使用上のご注意 .....	39
10. アフターサービスについて .....	41
保証規定 .....	44
保証書 .....	45

# 1. 各部の名称



## 2. 液晶表示部の説明

本表示は説明のため、実際とは異なります。



### 測定モード表示部

-  定常光モード (P12 参照)
-  フラッシュ光モードレスモード (P21 参照)
-  フラッシュ光モード接続モード (P18 参照)
-  日本国内では使用できません

### ISO表示 / 第2 ISO表示部 (P6 参照)

**ISO1** フィルムのISO感度を表示します。

**ISO2** ISO2 設定ボタンが押された時、ISO2 で設定されたISO感度を表示します。

### フラッシュ光成分比表示部

% 全光量に対するフラッシュ光成分比を10%ステップの数値にて表示します。

### 指示値補正表示部 (P32 参照)

-  指示値の補正を設定した時、点灯します。

## 2. 液晶表示部の説明

絞り値 / モニター値 / EV 値 / アベレージ値表示部

-  絞り優先測定の時、点灯します。(P14 参照)
-  モニター測定の時、点灯します。(P29 参照)
-  EV 測定の時、点灯します。(P15 参照)
-  アベレージ測定の時、点灯します。(P28 参照)

ドット表示部

最終測定値 / メモリー値 / モニター値 / アベレージ値を0.5段単位のドットで表示します。

-  表示範囲外アンダーの時、点灯します。(P13 参照)
-  測定範囲外アンダーの時、点滅します。(P13 参照)
-  表示範囲外オーバーの時、点灯します。(P13 参照)
-  測定範囲外オーバーの時、点滅します。(P13 参照)

シャッター速度 / シネコマ数表示部

設定に応じ、シャッター速度又はシネコマ数を表示します。

-  シャッター速度優先測定の時、点灯します。(P12 参照)
-  シャッター速度が分単位の時、点灯します。(P12 参照)
-  シャッター速度が秒単位の時、点灯します。(P12 参照)
-  シャッター速度がシネコマ数の時、点灯します。(P16 参照)

電池容量表示部 (P5 参照)

積算マーク / メモリーマーク / 回数表示部

-  積算モードにすると点灯し、測定ボタンを押した回数を表示します。(P23 参照)
-  測定値をメモリーすると点灯し、メモリーした回数を表示します。(P27 参照)

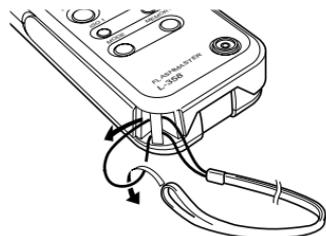
液晶バックライト (EL)

測定を行っている場所が暗いとき、測定後明るさを感じて自動的に液晶表示部が照明されます。尚、ミニ受光部、プ - スタ - 使用時については、測定後に周りの明るさに関係なく照明されます。測定中、及びフラッシュ光コードレス待機時は、測定値に影響を及ぼすため、照明されません。液晶の照明は各ボタンの操作後、約 20 秒で自動的に消灯します。測定の場合と手元の場所で明るさの差が大きいと液晶バックライトが点灯しないことがあります(NPファインダー使用時等)。この時は受光部(NPファインダー)を手で覆いMODE ボタンを押していただくと、液晶バックライトを点灯することが出来ます。

### 3. ご使用前に

#### 1. ストラップの付け方

- 1) ストラップ⑳をストラップ掛け㉑側面の穴から通します。
- 2) ストラップ先端の輪の中にストラップの反対側を通してください。

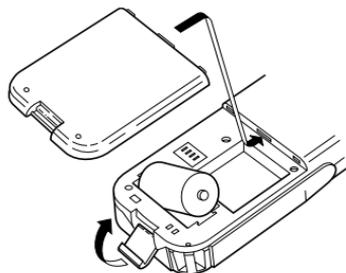


#### ⚠ 警告

乳幼児等が誤ってストラップを首に巻くことのないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。

#### 2. 電池の入れ方

- 1) リチウム電池 CR-123A の電池を 1 本用意します。
- 2) 電池ふたロック㉒をはずし電池ふた㉓を開けます。
- 3) 電池室㉔の + - 表示に合わせて入れてください。
- 4) 電池ふたの爪を本体の穴に合わせて、矢印のように上から押しつけながら、電池ふたロックをかけます。



#### ご注意

電池接片の腐食及び防水機能の低下を防ぐため、電池ふたのゴムパッキンにゴミや砂が付着しないようにしてください。

電池の液漏れ等で本機に影響を与えることがありますので、長期間ご使用にならない時は電池をとりだして保管してください。

液晶が表示されない場合は、電池容量が充分あるか電池が + - 逆に挿入されていないかを確認してください。

電池ふたを外すと電波方式フラッシュ同調システムの電波送信モジュールを取り付ける為のコネクタボックスがあります。このコネクタのカバーは、外さないでください。静電気により電子回路が故障する事があります。

#### 3. 電池容量の確認

電源ボタン⑫をONすると液晶表示部⑬に電池容量を示すマークが表示されます。



点灯 電池容量は十分です。



点灯 予備の電池を用意してください。



点滅 直ちに電池を交換してください。

#### ご参考

- ・電源をONした後、液晶表示部が現われたのちすぐに表示が消える場合は、電池容量がなくなっていますので、直ちに電池を交換してください。予備の電池は常にご用意されることをお勧めいたします。
- ・本機は連続側光した場合、電池寿命は常温で約100時間（当社試験条件）です。
- ・お買上のときに、本機に入っております電池はモニター用のため、上記の電池寿命に満たないうちに切れることがあります。

#### 4. 測定中やメモリー機能使用中の電池交換

- 1) 必ず電源を「OFF」してから電池交換を行ってください。電源「ON」のまま電池を取り出しますと、メモリーされている測定値や設定値を呼び出すことができなくなります。
- 2) 電池交換後又は測定中、液晶表示部に異常な表示（設定していない表示等）又は操作ボタンを押しても動作しないときなどは、電池を一度取り出し10秒以上経過してから入れ直してください。この現象は本機の構成上、発生する場合があります、故障ではありません。

#### ⚠ 警告

電池を火の中に入れてたり、ショート、分解、加熱、充電は絶対しないでください。電池が破裂し火災、ケガ、周囲を汚染する原因となります。

#### ご注意

電源ボタンのON/OFFの間隔は3秒以上あけてください。

### 3. ご使用前に

#### 5. 自動電源 OFF 機能

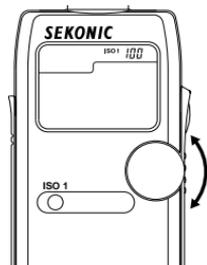
- 1) 省電力設計のため使用後(最後にいずれかのボタン操作後)約20分で自動的にすべての表示が消え電源はOFFとなります。
- 2) 自動電源OFF機能が働いた場合と、電源ボタン⑫をOFFした場合のいずれでも設定値・測定値は記憶されており、電源ボタンをONすることで再表示されます。

#### ご参考

- ・ 電源ボタンが押されたままの状態になると約1分後に自動的に電源が切れます。

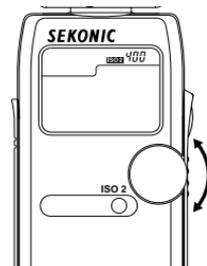
#### 6. フィルム ISO 感度の設定

- 1) ISO1 設定ボタン⑪を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回して、使用するフィルムのISO感度を設定します。
- 2) フィルムのISO感度の変更は、測定後でも行えます。  
測定後にフィルムのISO感度を変えると新たに換算された測定値を表示します。



#### 7. 第2フィルム ISO 感度の設定

- 1) 異なったISO感度のフィルムを使用する場合や露出補正(フィルター使用時、接写等)をする場合に使用します。
- 2) ISO2 設定ボタン⑥を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回して、フィルムのISO感度を設定します。

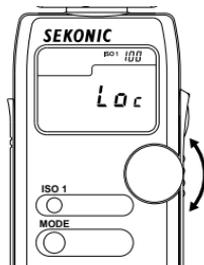


### 3. ご使用前に

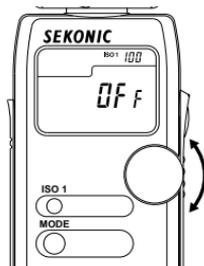
- 3) この設定をしておく、測定後にISO2 設定ボタンを押している間、設定されている第2フィルムISO 感度の測定値を表示します。
- 4) 第2フィルムのISO 感度の変更は6の2項と同様に可能です。

#### 8. 設定・測定値のロック及び解除

- 1) モード設定ボタン⑩とISO1 設定ボタン⑪を同時に押すと“LOC”と表示され、それ以降は設定 / 変換ダイヤル⑤を回しても設定値、測定値は固定されて変わりません。但し、測定ボタン⑮を押すと設定値は変わらず新たな測定値を表示します。



- 2) 再度モード設定ボタンとISO1 設定ボタンを同時に押すと、“OFF”と表示され、ロックは解除されます。



#### ご参考

- ・ロック状態で電源OFF、又はオートOFFされた場合は、次に電源がONされた時もダイヤルロック機能が継続されています。



### 2. ディップスイッチの設定

- 1) 本機の電池室内には使用頻度の少ないモードの設定スイッチを収納してあります。測定を始める前に選択したいモードを設定してください。
- 2) 設定の仕方は、選択したいモードのディップスイッチ ⑱ を ON の方向にスライドさせます。

#### EV 設定

ディップスイッチ 1 を ON すると EV モード（定常光）が設定できます。

#### MULTI 設定

ディップスイッチ 2 を ON すると積算モード（フラッシュ光）が設定できます。尚、追加されるモードの順序は P8 の図を参照願います。

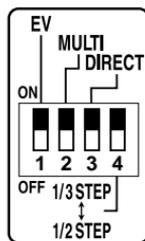
#### DIRECT 設定

ディップスイッチ 3 を ON するとディップスイッチ 4 で設定されているステップでシャッター速度と絞り値を表示できます。

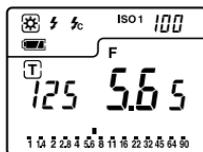
OFF にすると、シャッター速度は 1 段ステップ、絞りは 1/10 段ステップで表示します。

#### STEP 設定

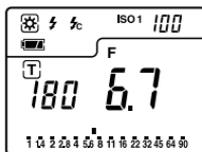
ディップスイッチ 4 が OFF 側でシャッター速度と絞り値の組合せを 1/2 段ステップで表示、ON 側で 1/3 段ステップで表示します。（但し、端数は表示しません）



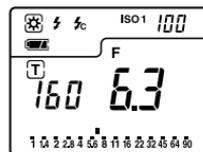
#### 表示例



T1 段、F1/10 段



T1/2 段、F1/2 段

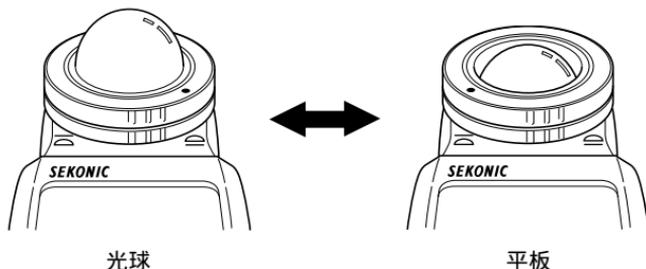


T1/3 段、F1/3 段

## 4. 基本操作

### 3. 入射光式で測定する場合

- 1) 入射光式の測定は、光球か平板機能を使って測定する方法です。  
光球と平板機能の切り換えは、光球上下リング①をクリックする位置まで確実に回して、切り換えてください。



- 2) 光球を上げた場合  
人物や建物など立体的な被写体を撮影するときを使用します。  
測定方法は、基本的には、被写体位置で光球をカメラ方向（正しくはレンズの光軸方向）に向けて測定する方法です。
- 3) 光球を下げた場合（平板機能）  
原稿、書籍、絵画など平面的な被写体を撮影するとき又は、照明比の測定（P29 参照）簡易的に照度を測定（P31 参照）するときを使用します。

### ご注意

光球上下リングを中間位置で使用すると、配光特性が変わり適正な測定ができません。

光球を手で押し込むことはしないでください。

光球は大切な受光部です。傷や汚れを付けないように扱ってください。光球が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）は、絶対に使用しないでください。

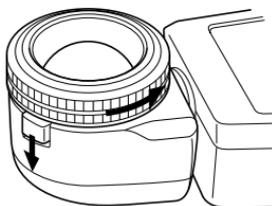
### 4. 反射光式で測定する場合

この方法は被写体に当たって反射した光の明るさ（輝度）を測る方法で、被写体位置まで近づけない場合や発光する被写体（ネオン等）透過光（ステンドグラス等）を測定する場合に適しています。

光角度板（受光角  $54^\circ$ ）を用いて

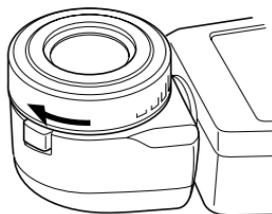
#### 1) 光球を取り外してください。

ロックレバー⑭を押し下げ、2重構造になっている光球上下リング①の上段側と下段側を持ち、反時計方向に回して光球部を取り外します。



#### 2) 光角度板を取り付けます。

光角度板⑳を取り付けるには、光角度板の着脱指標を△マークに合わせ、押し付けながら時計方向に回します。「カチッ」と音がしてロックレバーが上がり固定されます。



#### 3) カメラ位置又はカメラ方向から被写体の測定したい部分に光角度板を正しく向けて測定してください。

#### 4) 光球を取り付ける場合も、同様な手順で行ってください。

### ご注意

光球、光角度板を着脱する際、受光素子に触れないようにしてください。

NP ファインダーを用いて  $1^\circ$   $5^\circ$   $10^\circ$  のアクセサリ

このNPファインダーを付けて測定すると、カメラ位置で被写体の主要部分をパララックスのないファインダーで確認しながら測定できます。

詳しくはNPファインダーの使用説明書をご覧ください。

## 5. 測定

### 1. 定常光の測定

この測定方法には、シャッター速度優先、絞り優先、EV 値の各測定モードがあります。モード設定ボタン⑩を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回してⓂ定常光モードに切り換えます。

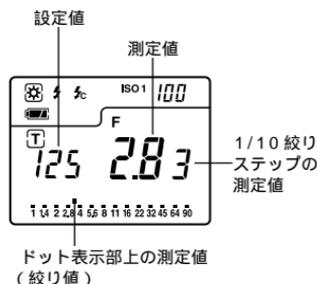
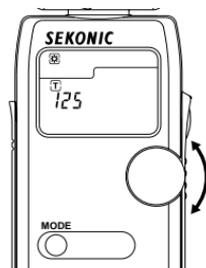
#### 1 - 1 シャッター速度優先モードの測定

1) モード設定ボタン⑩を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回して T シャッター速度優先モードにします。

2) 設定/変換ダイヤルを回して希望のシャッター速度に設定します。

3) 測定ボタン⑮を押して測定します。

測定ボタンを離すと測定が完了し、そのときの測定値(絞り値)が表示されます。測定ボタンを押している間は、連続測定します。



### ご注意

説明に使用される表示例は、DIRECT 設定が OFF 時の例です。DIRECT 設定が ON 時は 1/10 段の表示はされません。

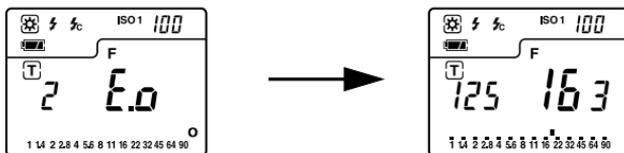
### ご参考

- ・シャッター速度の段数はディップスイッチ3と4を設定することにより1段、1/2段、1/3段毎のステップに切換えることができます。
- ・設定できるシャッター速度は30分、25分、20分.....1分、50秒、45秒.....1秒、0.8秒、0.7秒、.....1/3、1/4、.....1/30、1/40、1/45、1/50、1/60、1/80、1/90、1/100、1/125、1/160、1/180、1/200、1/250、.....1/4000、1/5000、1/6000、1/6400、1/8000秒です。1/8000秒の次に1/200、1/400秒が別に設定できます。
- ・測定後、シャッター速度を変えるとそれに対応する絞り値を表示します。

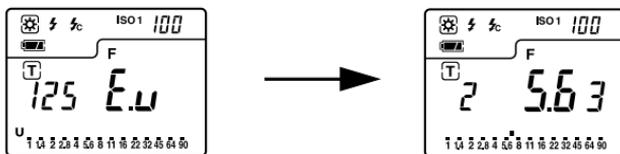
## ご参考

- ・液晶のドット表示部には1/2段ステップで測定された絞り値が表示されます。(1/3段ステップ設定時でも1/2段ステップで表示されます。)
- ・本機の測定範囲内であっても、設定されたシャッター速度では最大絞り値(F9.0)でも露出オーバーとなるE.oマーク、又は最小値(F1.0)でも露出アンダーとなるE.uマークの表示をすることがありますので下記のように対応してください。

表示範囲を超えてオーバー(E.o)となるときは、設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を高速側に変更すると、それに応じて適正な絞り値を表示させることができます。

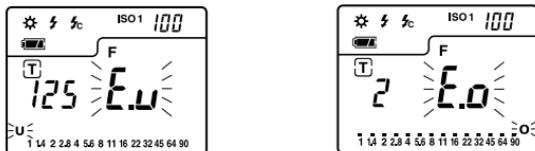


表示範囲を超えてアンダー(E.u)となるときは設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を低速側に変更すると、それに応じて適正な絞り値を表示させることができます。



## ご参考

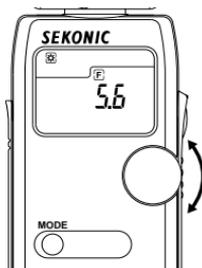
- ・本機の測定範囲を越える明るさ(又は暗さ)の時はE.o(又はE.u)が点滅表示し、測定できないことを表します。  
この場合は明るさを調節してください。



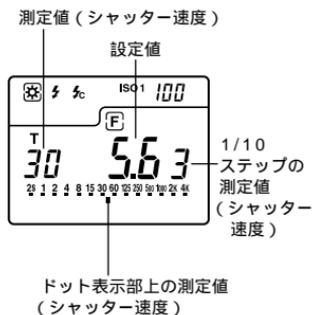
## 5. 測定

### 1 - 2 絞り優先モードの測定

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら設定 / 変換ダイヤル⑤を回して[F]絞り優先モードにします。
- 2) 設定 / 変換ダイヤルを回して希望の絞り値に設定します。



- 3) 測定ボタン⑮を押して測定します。測定ボタンを離すと測定が完了し、そのときの測定値(シャッター速度)が表示されます。測定ボタンを押している間は連続測定します。



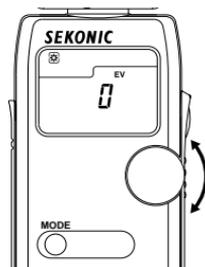
### ご参考

- ・絞り値の表示ステップはディップスイッチ3と4を設定することにより1段、1/2段、1/3段毎のステップに切り換えることができます。
- ・設定できる絞り値はF1.0、1.1、1.2、.....4.0、4.5、4.8、5.0、5.6、6.3、6.7、7.1、8.0、9.0、9.5、10、11、13、14、16、18、19、20、22.....64、72、76、81、90が設定できます。
- ・液晶のドット表示部は1/2段ステップで測定されたシャッター速度が表示されます。(1/3段ステップ設定時でも1/2段ステップで表示されます。)
- ・測定後に絞り値を変えると、それに対応するシャッター速度を表示させることができます。
- ・表示範囲外オーバー / アンダー及び測定範囲外オーバー / アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定(P13参照)を参考として絞り値を変更するか明るさを調節して対応してください。

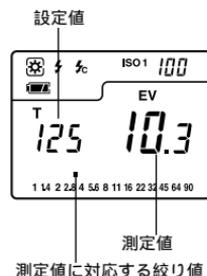
## 1 - 3 EVモードの測定

電池ふた⑯を開けてディップスイッチ⑱のEV(P9参照)をON側に設定します。

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回してEVモードにします。



- 2) 測定ボタン⑮を押して測定します。測定ボタンを離すと測定が完了し、そのときの測定値(EV値)を表示します。同時にシャッター速度に対応する絞り値がドット表示されます。測定ボタンを押している間は連続測定します。



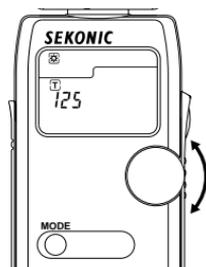
## ご参考

- ・EV値とはシャッター速度と絞り値で組み合わせられる一定の光量に対数的に表したものです。1EV変化すると光量は倍(又は1/2)になります。  
ISO100、絞り値F1.0、シャッター速度1秒の時をEV0とし、それより絞りを1段絞るか、シャッター速度を1段速くする毎に数値が1ずつ増していくように定めた表示方法です。
- ・測定範囲外オーバー/アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定(P13参照)を参考として明るさを調節して対応してください。

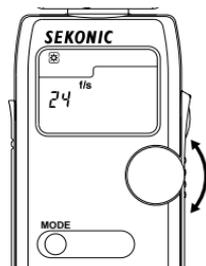
## 5. 測定

### 1 - 4 シネカメラ撮影時の測定

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を回して、定常光の  $T$  シャッター速度優先モードに切り換えます。



- 2) 設定 / 変換ダイヤルを回して使用するシネカメラのシネコマ数を設定します。



シネコマ数の設定は.....1/8000、1/200、1/400の次から表示され、単位はf/sとなります。設定できるシネコマ数は2、3、4、6、8、12、16、18、24、25、30、32、36、40、48、50、60、64、72、96、120、128、150、200、240、256、300、360が設定できます。

- 3) 設定されているシネカメラのシャッター開角度は180度です。これ以外の開角度の場合は以下のようにISO感度等で補正してください。

シャッター開角度	ISO感度補正量
160°	- 1 / 3
220°	+ 1 / 3

## 補正量について

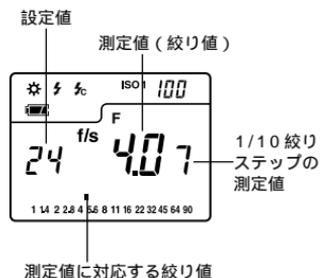
- 1/3 : ISO 感度の設定を 1/3 段小さい値にする

例 ISO 80 64

- + 1/3 : ISO 感度の設定を 1/3 段大きい値にする

例 ISO 80 100

- 4) 測定ボタン⑮を押して測定します。測定ボタンを離すと測定が完了し、そのときの測定値(絞り値)が表示されます。測定ボタンを押している間は連続測定します。



## ご参考

- ・液晶のドット表示部には1/2段ステップで測定された絞り値が表示されます。(1/3段ステップ設定時も1/2段ステップで表示されます。)
- ・表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定(P13参照)を参考としてシネコマ数を変更するか、明るさを調節して対応してください。

## 5. 測定

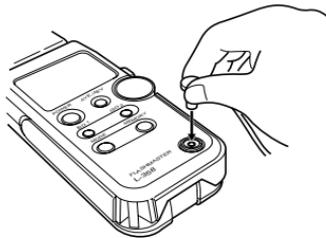
### 2. フラッシュ光の測定

この測定方法には、コード接続、コードレス、コード接続積算、コードレス積算の各測定モードがあります。フラッシュ光を測定すると、液晶表示部にシャッター速度と絞り値(定常光とフラッシュ光をミックスした値=全光量)が表示され、ドット表示部には、定常光、フラッシュ光(点滅表示)それぞれ単独の値と全光量の3つがドット表示されますが、場合によってはその区別はつかないことがあります。又、全光量に対するフラッシュ光成分比を10%ステップの数値にて表示します。

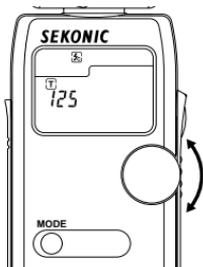
#### 2 - 1 フラッシュ光コード接続モードの測定

フラッシュと本機をシンクロコードで接続して測定を行う方法でフラッシュとの同調を確実にしたい場合や、フラッシュバルブ(閃光電球)の測定のために使用します。

- 1) フラッシュのシンクロコードを本機のシンクローターミナル⑧に接続します。

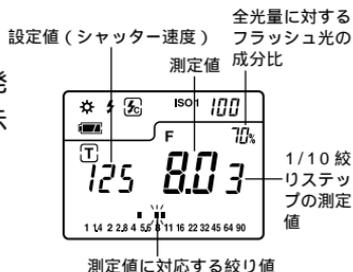


- 2) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回して  フラッシュ光コード接続モードに切り換えます。



- 3) 設定/変換ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

- 4) 測定ボタン⑮を押すと、フラッシュが発光し、そのときの測定値(絞り値)が表示されます。



 注意

雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合は、感電の危険がありますのでシンクロターミナルキャップを外さずに、「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

## ご注意

シンクロターミナルにシンクロコードを接続するときや本機の電源ボタンを操作した場合フラッシュによっては発光する場合があります。

極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「フラッシュ光コードレスモード」で測定してください。(P21 参照)

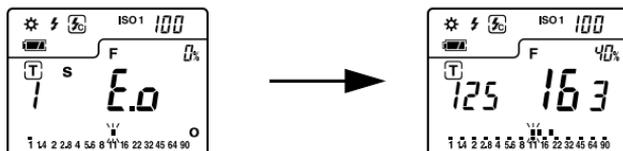
フラッシュバルブ(閃光電球)を発光させて測定するときは、同調範囲を確認してシャッター速度を設定してください。

## ご参考

- ・シャッター速度の段数はディップスイッチ3と4を設定することにより、1段、1/2段、1/3段毎のステップに切換えることができます。
- ・設定できるシャッター速度は30分、25分、20分、.....1分、50秒、45秒.....1秒、0.8秒、0.7秒.....1/3、1/4、.....1/60、1/80、1/90、1/100、1/125、1/160、1/180、1/200、1/250、.....1/750、1/800、1/1000秒です。1/1000秒の次に1/75、1/80、1/90、1/100、1/200、1/400秒が別に設定できます。
- ・測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値(絞り値)が表示されます。
- ・測定後にシャッター速度を変えるとそれに対応する絞り値を表示します。
- ・本機の測定可能な明るさ範囲内であっても、設定されたシャッター速度に対応する絞り値がE.o又はE.uの表示をすることがあります。次の方法で再測定してください。

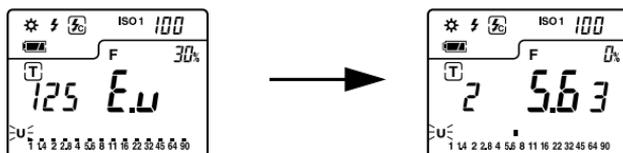
## 5. 測定

表示範囲を超えてオーバー（E.o）のときは、設定 / 変換ダイヤル⑤を回して、シャッター速度をカメラが同調する範囲内の高速側に変更するか、フラッシュの光量を弱くし、再測定を行うと測定値（絞り値）を表示させることができます。



定常光成分が多い時

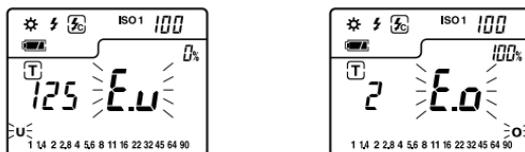
表示範囲を超えてアンダー（E.u）のときは設定 / 変換ダイヤルを回してシャッター速度を低速側に変更する、フラッシュの光量を強くする、又は、積算モードにし、再測定を行うと測定値（絞り値）を表示させることができます。



定常光成分が少ない時

本機の測定可能範囲を越える明るさ（又は暗さ）の時はE.o（又はE.u）が点滅表示し測定できません。

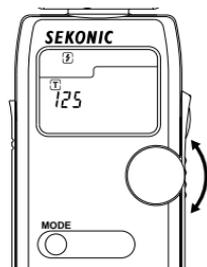
この場合はフラッシュの光量を調節して再測定してください。



## 2 - 2 フラッシュ光コードレスモードの測定

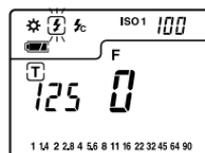
この測定モードは一般的にフラッシュと本機の距離がありシンクロコードが届かないときや、シンクロコードが煩わしいときに使用します。

1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を回して  フラッシュ光コードレスモードに切り換えます。



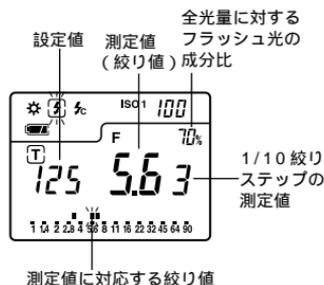
2) 設定 / 変換ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

3) 測定ボタン⑮を押すと、モードマーク  が点滅し測定待機状態になります。測定待機状態は約90秒間継続されます。この間にフラッシュ光を発光させ、測定してください。



4) 90秒間を経過し点滅が消えた場合は改めて測定ボタンを押すと前回の測定値(絞り値)は0になり、再び測定待機状態になります。

5) フラッシュ光を受光すると測定値(絞り値)が表示されます。測定後も、モードマーク  が点滅し、測定待機状態になり、新たな測定が可能となります。



## 5. 測定

### ご注意

フラッシュを発光させても周囲光に比べてフラッシュの光量が少ない場合は、光を感知しない時がありますので、そのときは「フラッシュ光コード 接続モード」にして測定してください。

ラビットスタート形蛍光灯や特殊な照明下では、まれにこれらの光をフラッシュ光として判別し、測定してしまうことがあります。このような時は「フラッシュ光コード接続モード」にして測定してください。

測定待機中にフラッシュを発光させなくても、受光部に急激な光の変化が起きると測定してしまうことがありますのでメモリーをするか「フラッシュ光コード接続モード」を使用してください。フラッシュバルブは発光波形がなだらかなため、コードレス測定では光を感知しないので必ず「フラッシュ光コード接続モード」で測定してください。

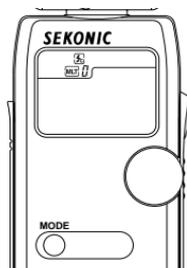
### ご参考

- ・測定後にシャッター速度を変えるとそれに対応する絞り値を表示します。
- ・シャッター速度の設定は2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定（P19 参照）と同様です。
- ・測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値が表示されます。
- ・表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては、2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定（P20 参照）と同様です。

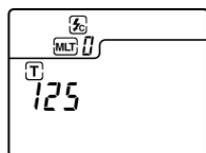
## 2-3 フラッシュ光コード接続積算（マルチ）モードの測定

この測定は1回の発光量では光量が足りないとき、数回発光させそれを積算する毎に適正の絞り値を表示させる方法です。積算回数は無限です。積算回数は10回以上は1桁目だけを表示します。

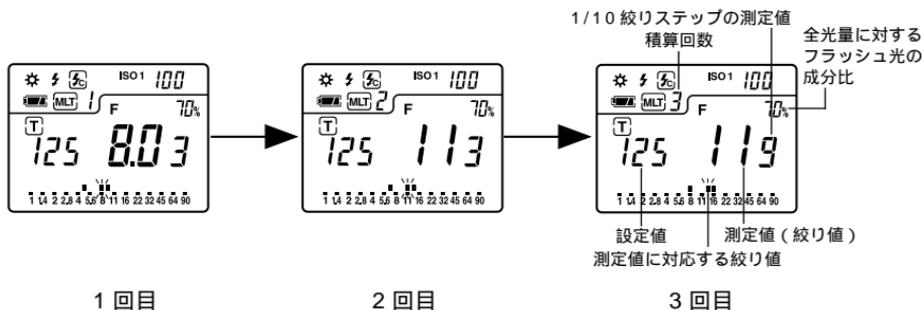
- 1) ディップスイッチ⑱のMULTI(P9参照)をONに設定します。モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回して $\frac{1}{10}$ とMLTのマークが表示された時、フラッシュ光コード接続積算測定モードになります。



- 2) 設定/変換ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。



- 3) フラッシュのシンクロコードを本機のシンクロターミナル⑧に接続します。
- 4) 測定ボタン⑮を押すと、フラッシュが発光し、絞り値が表示され、これを繰り返す毎に積算された絞り値と積算回数が表示されます。



## 5. 測定

- 5) 積算モードの解除は、モード設定ボタンを押しながらISO2設定ボタン⑥を押すか、又はモード設定ボタンを押しながら設定 / 変換ダイヤルを回転させ、モードを切り換えてください。

### ⚠注意

雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合は、感電の危険がありますのでシンクローターミナルキャップを外さずに、「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

### ご注意

シンクローターミナルにシンクロコードを接続するときや本機の電源ボタンを操作した場合フラッシュによっては発光する場合があります。

フラッシュバルブ(閃光電球)を発光させて測定するときは同調範囲を確認してシャッター速度を設定してください。

フラッシュバルブ(閃光電球)を発光させて測定するときはその都度フラッシュバルブ(閃光電球)を新しく交換してください。極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「フラッシュ光コードレス積算モード」で測定してください。(P25 参照)

### ご参考

- ・シャッター速度の設定は、2-1 項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定 P19 と同様です。
- ・表示範囲外オーバー / アンダー及び測定範囲外オーバー / アンダーについては、2-1 項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定 (P20 参照) と同様です。
- ・測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値(絞り値)が表示されます。

## 2 - 4 フラッシュ光コードレス積算（マルチ）モードの測定

この測定は1回の発光量では光量が足りないとき、数回発光させそれを積算する毎に適正の絞り値を表示させる方法です。積算回数は無限です。積算回数は10回以上は1桁目だけを表示します。

- 1) ディップスイッチ⑱のMULTI(P9参照)をON側に設定します。

モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回して $\frac{1}{2}$ とMLTのマークが表示されたときフラッシュ光コードレス積算モードになります。



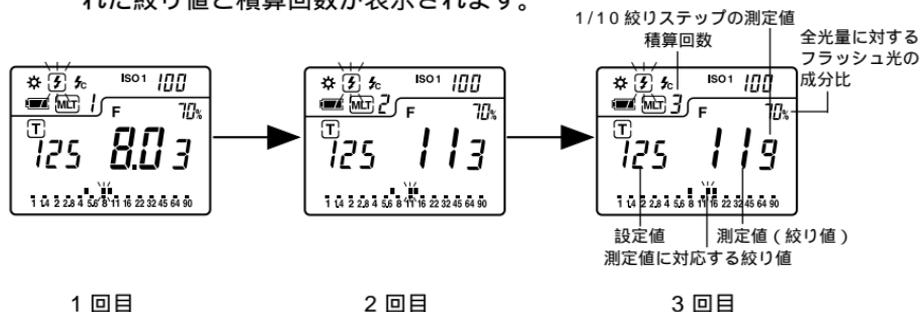
- 2) 設定/変換ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。

シャッター速度を設定するときは使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

- 3) 測定ボタン⑮を押すとモードマーク $\frac{1}{2}$ が点滅し、測定待機状態になります。測定待機状態は約90秒間続行されます。

この間にフラッシュを発光させて測定してください。

- 4) フラッシュを受光すると、絞り値が表示され、これを繰り返す毎に積算された絞り値と積算回数が表示されます。



## 5. 測定

- 5) 90秒間を経過し点滅が消えた場合、改めて測定ボタンを押すと前回までの測定値(絞り値)は0になり再び待機状態となります。

### ご注意

フラッシュを発光させても周囲光に比べてフラッシュの光量が少ない場合は、光を感知しない時がありますので、そのときは「フラッシュ光コード接続積算モード」にして測定してください。ラビットスタート形蛍光灯や特殊な照明下では、まれにこれらの光をフラッシュ光として判別し、測定してしまうことがあります。このような時は「フラッシュ光コード接続積算モード」にして測定してください。

測定待機中にフラッシュを発光させなくても、受光部に急激な光の変化が起きると測定してしまうことがありますのでメモリーをするか「フラッシュ光コード接続積算モード」を使用してください。

フラッシュバルブ(閃光電球)は発光波形がなだらかなため、コードレス測定では光を感知しないので必ず「フラッシュ光コード接続積算モード」にして測定してください。

### ご参考

- ・表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては、2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定(P20参照)と同様です。
- ・測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値が表示されます。
- ・測定後、シャッター速度を変えるとそれに対応する絞り値を表示します。

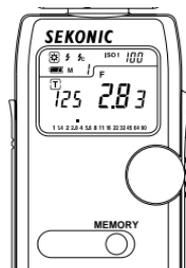
## 1. メモリー機能

本機は9点までの測定値をメモリーできます。この機能は、定常光シャッター速度優先、絞り優先、EV値、フラッシュ光(コード接続、コードレス、電波)のモードのとき使用できます。

1) 測定ボタン ⑮ を押して測定します。

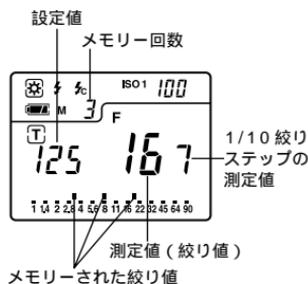
2) メモリーボタン ⑦ を押して、測定値をメモリーすると、液晶表示部に測定値とメモリー回数がデジタル表示され、さらに絞り値又はシャッター速度の値がドット表示されます。

この操作を繰り返すことにより 9 回までメモリーできます。



3) メモリーの解除は、モード設定ボタン ⑩ を押しながら ISO2 設定ボタン ⑥ を押すか、測定モードを切り換えることにより解除されます。

4) メモリーリコールは、メモリーボタンとモード設定ボタンを押しながら設定 / 変換ダイヤル ⑤ を回転させるとメモリーされた測定値がメモリー番号とともに表示されます。この時、メモリーされている最大の番号以外のメモリー値を呼び出しているときは「M」とメモリー番号が点滅表示されます。



## ご注意

フラッシュ光積算モードを使用しているときはメモリー機能を使用することはできません。

10 回以降は測定値は表示されますが、メモリーはできません。

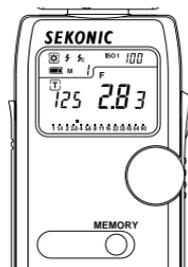
## 6. 機能

### 2. アベレージ機能

メモリーされた9点までの測定値を、平均し表示します。

この機能は、定常光シャッター速度優先、絞り優先、EV値、フラッシュ光（コード接続、コードレス、電波）のモードのとき使用できます。

- 1) 測定ボタン⑮を押して測定します。
- 2) メモリーボタン⑦を押して、測定値をメモリーします。
- 3) 1).2)を繰り返して9点目までメモリーできます。

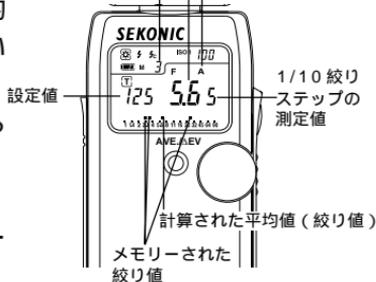


- 4) アベレージ/モニターボタン④を押すとメモリーされた9点までの測定値の平均値がデジタル表示されます。尚、ドット表示部にもメモリー値と平均値が表示されますがその区別はつかないことがあります。このとき液晶表示部にアベレージであることを示す「A」が表示されます。

アベレージであることを示すマーク

計算された平均値  
(絞り値)

メモリー回数



- 5) アベレージ解除はアベレージ/モニターボタンを押すと解除できます。

## 3. モニター機能

スタジオでのライティングの確認や照明ムラのチェックを行う時に便利な機能です。

あるポイントでの測定値を基準とした後、比較したい箇所で測定ボタン⑮を押している間、基準値とその箇所の差をEV値（数値）とF値（ドット）で表示します。

モニター機能を使つての照明比測定例

（入射光式でのシャッター速度優先モードの場合）

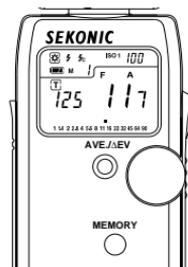
主光源と補助光源の照明比を測定するとき、光球を下げて平板機能を使用して測定します。

- 1) 光球上下リング①を回して△マークの位置にします。



- 2) 主光源のみ点灯させます。

被写体位置で受光部を主光源に向けて測定し、メモリーボタン⑦を押して測定値をメモリーします。

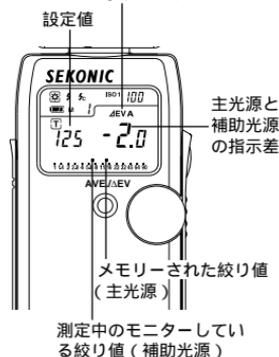


- 3) アベレージ/モニターボタン④を押して液晶表示部に「A」のマークを表示させてください。

モニター測定中であることを示すマーク

- 4) 次に補助光源のみ点灯します。

この状態で光球部を補助光源に向けて、測定ボタンを押している間、主光源と補助光源の指示差が、EV値で表示されます。同時にメモリー値、モニター値がドット表示部に表示され照明比（コントラスト）を求めることができます。



## 6. 機能

測定値のEV差	照明比
1	2 : 1
1.5	3 : 1
2	4 : 1
3	8 : 1
4	16 : 1

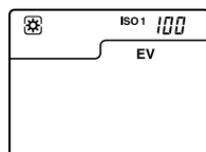
5) モニター解除は、アベレージ/モニターボタン④を押すと解除できます。

### ご参考

- ・ 入射光測定時の露出決定は、主光源と補助光源を点灯し光球を☉マークの位置にしてカメラの光軸に向けて測定します。
- ・ この機能は、反射光式測定時にもご使用できます。

## 4. 簡易照度計としての使い方

- 1) 光球上下リング①を回して△マークの位置にします。
- 2) 指示値補正 (P32 参照) は解除(± 0)してあることを確認してください。
- 3) EV 値モードに設定し、ISO100 にセットします。
- 4) 測定したい面と受光部が平行になるようにして測定します。
- 5) 測定した EV 値を換算表から照度 (ルクス) を求めてください。



E V 値 ルクス換算表

EV少数項 EV整数項	0	0.5	EV少数項 EV整数項	0	0.5
- 2	0.63	0.88	9	1300	1800
- 1	1.3	1.8	10	2600	3600
0	2.5	3.5	11	5100	7200
1	5	7.1	12	10000	14000
2	10	14	13	20000	29000
3	20	28	14	41000	58000
4	40	57	15	82000	120000
5	80	110	16	160000	230000
6	160	230	17	330000	460000
7	320	450	18	660000	930000
8	640	910	19	1300000	1900000

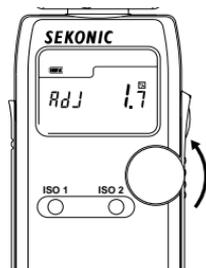
## 6. 機能

### 5. 指示値補正機能の使い方

本機は当社の基準により標準的な校正がされていますが、特に必要な場合は、 $\pm 9.9\text{EV}$ の範囲で補正できます。

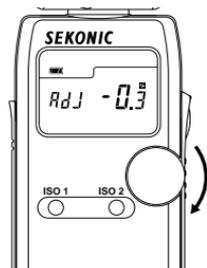
プラス補正の場合 撮影した時露出アンダーになります。

ISO1 設定ボタン⑪とISO2 設定ボタン⑥を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を反時計方向に回転すると、指示値が  $+ 0.1\text{EV}$  毎に  $+ 9.9\text{EV}$  まで補正できます。



マイナス補正の場合 撮影した時露出オーバーになります。

ISO1 設定ボタン⑪とISO2 設定ボタン⑥を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を時計方向に回転すると、指示値が  $- 0.1\text{EV}$  毎に  $- 9.9\text{EV}$  まで補正できます。



### ご注意

補正する時は、十分なテスト撮影の結果をもとにご自分の好みに合わせて補正してください。

補正は、入射 / 反射、定常光 / フラッシュ光、各測定を問わず、一律に補正されますのでご注意ください。

### ご参考

- ・補正されている場合は、液晶表示部に  マークが常時表示されています。

## 6. 分離測光機能

1回の測定でフラッシュ光と定常光の割合を表示します。

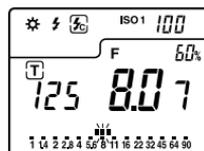
フラッシュ光を測定すると、液晶表示部にシャッター速度と絞り値（定常光とフラッシュ光をミックスした値＝全光量）が表示され、ドット表示部には定常光、フラッシュ光（点滅表示）それぞれ単独の値と全光量の3つがドット表示されますが場合によってはその区別はつかないことがあります。

又、全光量に対するフラッシュ光成分比を10%ステップの数値にて表示します。

この数値によって例えば、タングステンランプで照明されている室内のフラッシュ撮影時に、タングステン光（定常光）を強調したり、弱めたり（フラッシュ光の影響を強くする）して作画意図に合わせて調整することができます。

## 例

ある測定条件でフラッシュ光成分が60%、タングステン光成分が40%の場合右図の様になります。

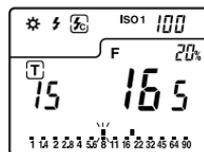


### 1) タングステン光（定常光）を強調したい場合（雰囲気をおレンジ色の感じにしたい場合）

- ・ タングステン光の比率を上げるために設定 / 変換ダイヤル⑤でシャッター速度を低速側に変えていきます。

フラッシュ光成分が20%になったことが分かります。ドット表示部ではフラッシュ光成分より定常光成分の方が約2.5段多いことが分かります。

結果フィルム上にはタングステン光の雰囲気を生かしたおレンジ色の感じで表現されます。



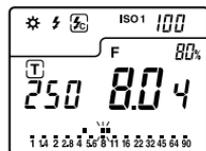
## 6. 機能

- 2) タングステン光(定常光)の影響を少なくしたい場合(自然な雰囲気にした場合)

タングステン光の比率を下げるために設定/変換ダイヤル⑤でシャッター速度を高速側に変えていきます。

フラッシュ光成分が80%になったことが分かります。ドット表示部ではフラッシュ光成分が定常光成分より約1.5段多いことが分かります。

結果フィルム上には自然な色で表現されます。

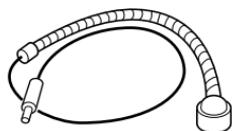


上記ではシャッター速度によりタングステン光(定常光)を調整して決めましたが、フラッシュ光を調整(フラッシュと被写体との距離を変える場合やフラッシュの光量を変える場合)して比率を変える方法もあります。この方法で行う場合はフラッシュ光を調整した毎に再測定してください。

## 7. アクセサリー

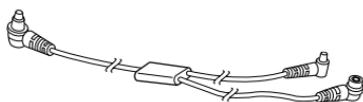
- ・ミニ受光部（別売）

直径 12mm の小さな受光面積を持つ入射光式受光部で、コードが自在に動きかつ固定できるため、細部の明るさが測定できます。小物撮影や接写などの場合に有効です。



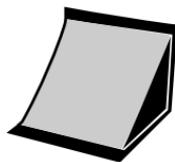
- ・シンクロコード（別売）

長さ 5m のコードは 3 つのプラグを持ち、露出計とフラッシュとカメラを接続同調させることができますので、撮影する時にもコードを差し換える必要がなく便利です。又、シンクロコードの一方の接続端子は、ロック機構がついておりますので露出計側に使用すると確実に接続することができます。



- ・標準反射板（別売）

18%の反射率を持つグレーカード（110 × 102mm）で、反射率の高い（白い物）又は低い（黒い物）被写体や著しく異なった反射率をもつ被写体を測定する場合、その影響を受けないようにするため被写体の平均反射率を 18% とみなして露光量を決定するときに使用します。



## 7. アクセサリー

---

- 生活防水構造 NP ファインダー（別売）  
受光角  $1^{\circ}$ 、 $5^{\circ}$ 、 $10^{\circ}$  の 3 種類があります。一眼方式を採用していますのでパララックスがなく、狙い通りの測定ができます。



受光角  $1^{\circ}$



受光角  $5^{\circ}$



受光角  $10^{\circ}$

## 8. 仕様

形式	● フラッシュ光及び定常光用デジタル露出計
受光方式	● 入射光式及び反射光式
受光部	● 入射光式 光球 平板機能 (光球を本体内部に移動する機能により平板機能兼用) ● 反射光式 受角度 54° (光角度板) NP ファインダー 1°、5°、10° (各別売) ● 外部受光式 ミニ受光部 (各別売)
受光素子	● シリコンフォトダイオード
測定方式	● 定常光 絞り優先測定 シャッター速度優先測定 EV測定 ● フラッシュ光 シンクロコードを用いて測定 (積算あり、なし) シンクロコード無しで測定 (積算あり、なし)
測定範囲 (ISO100)	● 定常光 入射光式 EV - 2 (F2.0、15秒) ~ EV22.9 (約 F31、1/8000秒) 反射光式 EV - 2 (F2.0、15秒) ~ EV22.9 (約 F31、1/8000秒) 但し光角度板使用の場合 ● フラッシュ光 入射光式 F1.0 ~ 90.9 (約 F124) 反射光式 F1.0 ~ 90.9 (約 F124) 但し光角度板使用の場合
繰返し精度	● ± 0.1EV 以内
校正定数	● 入射光式 光球 C=340 平板 C=250 ● 反射光式 K=12.5
表示範囲	● フィルム感度 ISO 3 ~ 8000 (1/3 ステップ) ● シャッター速度 定常光 30分 ~ 1/8000秒 (1又は1/2、1/3ステップ) 他...1/200,1/400秒 設定可能 シネコマ数 (f/s) 2、3、4、6、8、12、16、18、 24、25、30、32、36、40、48、50、60、 64、72、96、120、128、150、200、240、256、 300、360 (開角度 180°) フラッシュ光 30分 ~ 1/1000秒 (1又1/2、1/3ステップ) 他 ...1/75、1/80、1/90、1/100、1/200、1/400 秒 設定可能 ● 絞り値 F1.0 ~ F90.9 (0.1ステップ) ● EV値 EV - 9.9 ~ EV40.1 (0.1ステップ)

## 8. 仕様

---

- ドット表示部 F No. スケール F1.0 ~ F90 (0.5 ステップ)  
T スケール 2S ~ 4K (0.5 ステップ)
  - モニター表示 EV - 9.9 ~ EV9.9 (0.1 ステップ)
  - 積算回数 下1桁 0 ~ 9
  - 補正表示 EV - 9.9 ~ EV9.9 (0.1 ステップ)
  - 分離測光 0 ~ 100% (10%ステップ)
- その他の機能
- 生活防水機能 JIS 規格 保護等級 4 級、防まつ (沫) 形
  - メモリー機能 9 回まで可能
  - メモリークリアー・リコール機能
  - 積算機能 回まで可能
  - アベレ - ジ演算機能
  - 測定範囲外及び表示範囲外 E.u (アンダー)E.o (オーバー) 警告表示
  - 電池容量表示機能
  - 自動電源 OFF 機能 (最終操作後約 20 分)
  - 液晶バックライト (EL) 自動点灯
  - モード選択ディップスイッチ
  - ISO 2 フィルム感度設定可能
- 使用電池
- リチウム電池 CR-123A 1 本
- 使用温度範囲
- - 10 ~ 50
- 保管温度範囲
- - 20 ~ 60
- 寸法
- 約 60 (幅) × 155 (高さ) × 37 (厚さ) mm
- 質量
- 約 153g (電池含む)
- 標準付属品
- 光角度板、ソフトケース、ストラップ、シンクロターミナルキャップ、  
リチウム電池 CR-123A 1 本

この使用説明書に記載の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

注意 本機 (L-358) は、日本国内に於きまして電波モジュールの搭載、使用はできませんので十分ご注意ください

## 9. 使用上のご注意

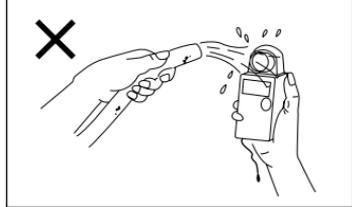
### ご注意

この露出計は日常の生活防水機能を持っていますが、(JIS規格保護等級4級防まつ形)水に漬けたり、水中での使用はさけてください。故障の原因になります。

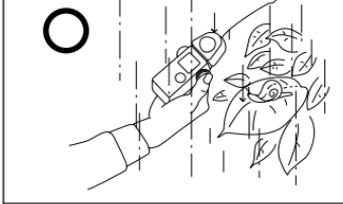
水しぶき



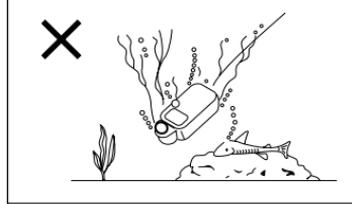
水洗不可



雨



水没及び水中使用不可



落下または急激な衝撃は絶対に避けてください。故障の原因になります。

高温または多湿な場所には保管しないでください。故障の原因になります。

急激な温度変化による湿気に注意してください。結露する場合があります。故障や誤動作の原因になります。

本機の温度が  $-10$  以下になると、液晶表示の応答が非常に遅くなり、表示が読みにくくなります。温度が  $0 \sim 10$  では液晶表示の応答が若干遅くなりますが、ご使用には差し支えありません。また、温度が  $50$  を超えると液晶表示が黒くなり、表示が読みにくくなりますが常温に戻るともとの状態になります。

真夏の直射日光下や暖房設備等の近くに放置すると、気温に比べて本機の温度がかなり上昇することがありますので、このような場所での取り扱いにはご注意ください。

## 9. 使用上のご注意

---

### お手入れについて

- ・ 水しぶき等を浴びて水滴がついた場合はなるべく早く乾いた布で拭き取ってください。錆びたり腐食の原因となります、
- ・ 電池ふたのゴムパッキンに強い力を加えたり、剥がしたりしないでください。浸水、腐食、故障の原因になります。
- ・ ゴムパッキンやパッキンが当たる面に傷がついたときは、浸水、腐食、故障の原因になりますので、弊社営業部門にご相談ください。
- ・ 本機が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)は、絶対に使用しないでください。

## 10. アフターサービスについて

\* 弊社の製品には一定の期間内無料修理をお引き受けする保証書があります。記載事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。

### 無料保証期間などについて

1. 無料保証期間はお買い上げ日より1年間です。
  2. 保証書にお買い上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
  3. 無料保証期間でも有料修理となる場合もありますので、保証書の記載事項をお確かめください。
  4. 保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
- 補修用部品の保有期間などについて

1. 補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって、本期間を過ぎますと修理をお引き受けできないことがあります。
2. 修理完了品には、弊社の修理納品書が発行されますのでお確かめください。
3. 修理可能期間内でも浸冠水、強度のショックその他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われまますものにつきましては、修理不可能となる場合があります。

### 修理ご依頼にあたって

1. 修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご留意ください。
2. 修理をご依頼されたものの中には単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、(+)(-)の逆、定格違いなどについて、よくお確かめください。

### お問い合わせについて

本製品の保証、修理、使い方などのお問い合わせは弊社営業部門にご相談ください。

万一、製造上の不備で生じた不都合につきましては現品をもって保証させていただき、それ以外の責は負いかねます。





# [保証規定]

1. 使用説明書にそった正常な使用状態で、万一、保証期間内に故障が生じた場合には、保証書を現品に添えてお買い上げの販売店または弊社営業部門にご持参くだされば無料にて修理・調整させていただきます。
2. 次のような場合には保証期間内でも保証の対象とはなりません。
  - (1) 誤ったご使用またはお取り扱い上の不注意により生じた故障、または損傷など
  - (2) 保管上の不備によるもの、および使用者の責に帰すと認められる故障、または損傷など
  - (3) 弊社の指定する修理取扱所以外で行われた修理・改造・分解掃除などによる故障または損傷
  - (4) 火災、地震、水害、公害、指定外の使用電池（電圧）およびその他の天災地変や落下、衝撃などによる故障または損傷
  - (5) 保証書のご提示がない場合
  - (6) 保証書にお買い上げ日、保証期間、販売店名などの記載の不備な場合あるいは字句を書換えられた場合
  - (7) ご使用後の内・外装面のキズ、部品や付属品の紛失による修復交換
  - (8) 各部品点検、精密検査、分解掃除等を特別にご依頼された場合
  - (9) 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用および撮影により得べかりし利益の喪失など)
  - (10) お買い上げ店または、弊社営業部門にご持参いただくに際しての諸費用またはお買い上げ店と弊社間の運賃諸掛り
3. ご注意
  - (1) 本保証書は以上の保証規定により無料修理をお約束するものでこれによりお客様の権利を制限するものではありません。
  - (2) 本保証書の表示について、ご不明な点は弊社営業部門にお問い合わせください。
  - (3) 保証書をお受け取りの際は、販売店名および購入年月日などが記入されているかどうかをご確認ください。万一記入もれがありました場合には、ただちにお買い上げ店へお申し出ください。
  - (4) 保証書の再発行はいたしませんので大切に保存してください。
  - (5) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
4. 個人情報について
  - (1) お客様より頂きました個人情報は、個人情報保護法のもと、以下の利用目的等に限定し、第三者への提供はいたしません。
    - a. 電話・FAX・E-Mail・手紙などによる各種情報配信サービスとのご案内
    - b. 弊社、社内使用に限定したマーケティング資料の作成
  - (2) お客様ご本人が確認・開示または訂正・削除を希望される場合には、下記にご連絡ください。

## 連絡先

〒178-8686

東京都練馬区大泉学園町 7-24-14

TEL 03-3978-2366

FAX 03-3922-2144

<http://www.sekonic.co.jp>



## 保証書

このたびは、セコニック露出計をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

この製品は弊社が心をこめ厳重な品質管理のもとに製造したものでございますが、万一保証期間内に故障が生じた場合には、本保証書を現品に添えてお買い上げの販売店または弊社営業部門にご持参くだされば、無料にて修理・調整させていただきます。

(保証除外事項は P44 保証規定に記載されております)

機種名 L-358 BNo. \_\_\_\_\_

お買い上げ日 \_\_\_\_\_ 年 月 日

保証期間 \_\_\_\_\_ お買い上げ日より 1 年間

ご住所 \_\_\_\_\_

ご氏名 \_\_\_\_\_

### 株式会社 セコニック

〒178-8686 東京都練馬区大泉学園町 7-24-14

TEL 03-3978-2366 FAX 03-3922-2144

<http://www.sekonic.co.jp>

販売店名

## 株式会社 セコニック

〒178-8686 東京都練馬区大泉学園町 7-24-14

TEL 03-3978-2366 FAX 03-3922-2144

<http://www.sekonic.co.jp>